

チームけせんの和 だより

2017
vol.14
3月31日号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118

チームけせんの和に寄せて

森の前薬局 薬剤師 黄川田 尚 史



震災の年の4月から、高田の鳴石地区で開局しております。薬局は処方箋による調剤の他、市販薬の販売や相談、在宅訪問など、様々な役割を担っています。

私達は、薬を正しく服用し、残薬などが発生しないように、服薬支援をしたり、多剤併用による飲み合わせとか、同じ効き目の薬が重なっていて起こる様々な問題を回避し、薬の副作用が発生しないように、安心して治療ができるようにサポートしていかなければなりません。

私たちの薬局は、高齢者も多く、複数の病気をもち、複数の医療機関から薬をもらい、飲み合わせに注意を払わなければならない患者さん、薬の管理に問題を抱えている患者さんが多くみられます。飲み合わせをチェックすることで、副作用のリスクを減らしたり、一包装してさしあげることで、薬の管理をしやすくし、飲み忘れを減らしたり、残っている薬を整理し、調整することで、医療費の無駄を省くこともできます。

薬局内での患者様とのお話の中では、見えてこないこともたくさんあり、定期的に薬が処方され続けていることも多いと思います。このような問題にも、多職種の方々と連携して情報を共有することができれば、治療効果が十分に発揮できるような服薬支援をしていくことが可能です。生活面を知っているケアマネジャーさんなどの、多職種の方々の視点はとても役立ちます。チームけせんの和での、多職種の方々と顔の見える関係作りは、とても重要だと思っています。

最近では患者さんの担当のケアマネジャーさんやヘルパーさん他多職種の方々と連絡を頂くこともあり、とても心強く思っています。複数医療機関受診による薬の重複や、大量の残薬などがケアマネジャーさんからの連絡で分かり、処方変更や、処方削除に至ったケースもありました。

これからは薬剤師側からも、患者さんの薬以外にも生活面での様々な問題、不安がある時は積極的に多職種の方々と連携し、課題に取り組んでいくことが必要だと思いますので、よろしくお願いたします。

また担当の患者さんのお薬のことで、疑問に思ったこと、質問事項などありましたら、遠慮なくお声かけ頂ければ嬉しいです。



健康紙芝居で陸前高田の健康づくりを目指して!!

陸前高田市保健推進員となかまの会 (文責 鈴木秋子)

「いよいよ、これから本格的に口腔ケア紙芝居の上演だね。」「がんばろうね。」そんな声を掛け合いながら、先日、口腔ケア紙芝居の改訂作業をしました。口腔ケア作品は、「劇団ばば☆」の「健康長寿はお口から」を、原作者の許可を得て、忠実に紙芝居化したものですが、2回ほど上演し、見て戴いた方々の感想や意見を参考に、より伝わりやすいように、画面を増やす改訂をしたものです。

私たちがなかまの会は、陸前高田市の健康課題解決のために、健康サポーターとしての保健推進員が活動しやすいように、共通して取り組めることを考えていこうと、平成27年度後半に、当時の保健推進員有志が立ち上げた会です。活動内容を、会員みんなで考えた結果、健康紙芝居を作って啓発活動をして行こうということになり、第1に取り上げたことは、脳卒中予防についてでした。これは、ある市民の方の減塩実践生活に触発され、書き下ろささせていただきました。そして、2番目に乳幼児の齲歯罹患率若手県内ワースト1からの脱却を図ろうと、口腔ケアに取り組むことにしました。

この紙芝居を作るにあたり、石木先生のご指導を仰ぎ、市の担当課の方々のご協力をいただいて平成27年度末に2つの紙芝居を完成させることが出来ました。

平成28年4月からは、現役の保健推進員らとともに、保健推進員企画運営の健康教室等で、公演活動を行ってきました。平成28年12月末日現在、市内全町で12回公演し、延べ390名超の方々にご参集いただきました。

加えて、大船渡保健所の「はまかだ教室」での公演も8回させていただきました。これも合計するとしたら、延べ500名を超えるの方々にご参集いただいたことになると思います。

また、紙芝居作成中に石木先生より『紙芝居公演に際しては、保健推進員となかまが紙芝居をし、専門職が補足説明と質問に答えるというパターンで啓発活動をして行けば、陸前高田の健康度アップが大いに期待できる』と、お話しいただきましたが、公演時には、その約束通りにご多忙の中、お力をお貸しいただいてまいりました。

このように、いろいろな方々のお力をお借りしながら、現役の保健推進員と保健推進員卒業生の「なかま」が一丸となって市内全町で、紙芝居上演活動に取り組んできたことで、多少なりとも、市民の方々に健康の大切さについての意識付けができたのではないかと考えています。公演活動に参加することで、地域で活動することの良さを体感できたという保健推進員の意見もたくさんありました。

これからの私たちがなかまの願いは、保健推進員が活動しやすいようにサポートする事だと思っています。陸前高田の健康づくりのため、保健推進員となかまが共通して取り組む活動を継続していくことが出来たらいいなと思っています。今後とも皆様方のご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

▼「二又診療所での公演風景」

☆健康紙芝居公演記録 (平成28年12月現在)

No.	月	日	場	所	演	目	上演者	補足者
1	2016/5/26		生出コミセン		減塩実践	保推・なかま	石木医師	
2	6/5		滝の里会館		〃	〃		
3	7/9		米崎コミセン		〃	〃	石木医師	
4	7/10		雷神公民館		〃	〃		
5	7/11		米崎交流館ひだまり		口腔ケア	蒲生恵美保健師		
6	9/26		二又診療所		減塩実践	保推・なかま	石木医師	
7	10/1		生出コミセン		口腔ケア	〃	吉田裕歯科医師	
8	10/19		矢作コミセン		減塩実践	〃	石木医師	
9	10/20		壺の沢会館		〃	〃	佐藤保健師	
10	10/27		小友コミセン		〃	〃	石木医師	
11	11/11		金成公民館		〃	保推・ハッピー	大和田介護予防指導員	
12	11/13		下矢作コミセン		〃	保推・なかま	石木医師	



☆大船渡保健所のはまかだ教室での紙芝居公演 (平成28年12月現在)

No.	月	日	場	所	演	目	上演者
1	2016/5/24		栃ヶ沢仮設		減塩実践	保健推進員・なかま	
2	6/6		要谷仮設		〃	〃	
3	9/1		長部コミセン		〃	〃	
4	9/6		竹駒コミセン		〃	〃	
5	11/7		旧広田水産高校仮設		〃	保健推進員	
6	11/25		モビリア仮設		〃	〃	
7	12/1		上長部仮設		〃	保推・なかま	
8	12/26		旧横田中(現横田小)仮設		〃	保推・なかま・ハッピー	



▲「モビリア仮設ではまかだ公演」

チームけせんの和 活動報告

平成 28 年 12 月 13 日(火) @キャピタルホテル

平成 28 年度 第 7 回研修会 (60 名参加)

テーマ： 続・職種別「患者・利用者を支える医療介護の連携を探る」討論会

第 4 回研修会の検討会「患者・利用者を支える医療介護の連携を探る」を受けて、熱が冷めないうちに続・「職種別討論会」を実施しました。10 月の検討会后に新たな仕組みづくりが出来た薬剤グループの発表もあり、効果的な多職種連携をするためのステップアップになることは間違いなしの討論会となりました。終了後には忘年会が予定されており、短時間ながらも熱気にあふれた充実した討論会となりました。



平成 29 年 2 月 24 日(金) @コミュニティホール

平成 28 年度 第 8 回研修会 (74 名参加)

シンポジウム：「多職種連携による在宅での終末期ケアの現状と課題について」

研修会では、在宅での終末期ケアに取り組む地元の医療、福祉関係者 6 名の発表があり、参加者は現状と今後の課題について再確認及び理解することができました。シンポジウムの中で、在宅での看取りでは、その人がその人らしく、生活の場で看取りができるように、それぞれが他職種と連携しながら援助サポートしていく。訪問診療・訪問看護の活用、自宅で看取りができる事を知っていただく等、課題があげられました。全員の発表後は質疑応答があり、薬剤師の役割、家族への配慮についての質問や意見が出され、有意義な研修会となりました。



次の方々が発表者してくださいました。お忙しい中原稿をまとめていただきまして、ありがとうございました。



岩手県立高田病院 院長 田畑潔
「高田病院における看取りの実態」



岩手県立高田病院
副総看護師長 佐々木香
「高田病院でかかわった
在宅看取りの 1 事例」



そうごう薬局高田店
薬局長 白井秀徳
「調剤薬局ができること
～在宅・終末期医療における薬局の役割～」



医療法人勝久会松原クリニック訪問診療部
看護師 佐藤涼子
「訪問診療における
終末期ケアの現状と課題」



あゆみ訪問看護ステーション
管理者・看護師 武蔵香織
「在宅での終末期における訪問看護」



絆指定居宅介護支援事業所
管理者・ケアマネジャー 佐藤吉樹
「終末期ケアのケアマネジャーの役割」

平成 29 年 3 月 17 日 (金) @コミュニティホール

平成 28 年度 第 9 回研修会 (59 名参加)

テーマ: 「がん終末期の緩和ケアとコミュニケーション」

+がん疼痛のアセスメント

講師: 埼玉県立がんセンター 緩和ケア科 科長
余宮 きのみ先生



終末期の患者さんケアでよい理解者と受け入れてもらえるには、患者さんの病状に合わせて、声の強さ・スピード・表情を考慮して、今どのような不安感を持っているのか、どんなことで苦しんでいるのかを知って「良い質問」をすること。その質問によって得た問いに対して「適切な説明」をする。



このことでコミュニケーションが成り立っていくということです。そして患者さんは、このコミュニケーションをする中で自分自身で不安・悩みを整理していく。この過程がとても大切だと学ばせていただきました。

パワフルな講演の中では、体験談も多く紹介され、参加者から明日から現場で生かせる力をもらったという声がほうぼうから聞こえてきました。余宮先生には遠いところからおいでいただき、また講演内容も随時調整いただきました。ありがとうございました。

平成 28 年度を振り返って

陸前高田の在宅医療支える会 会長 石木幹人

平成 28 年度は、先駆的な仕事をしている多くの講師による研修会の他に、各職種の意見交換会や在宅看取りのシンポジウムを行い、実りある 1 年間であった。陸前高田市は高齢化率が 40% に近づきつつあり、地域によっては 50% を超える限界集落が出現しつつある。そのような集落では、高齢者のみの家庭や高齢者一人暮らしが多く、さらに認知症が絡むと、医療や介護を届ける必要が高まってくる。復興住宅の高齢化率も 40% を越え、高齢者のみの家庭も 40% を越えている現状がある。「チームけせんの和」の活動がますます必要になってきている。平成 29 年度はもっと実践的な研修会を開催していく必要を感じている。みんなと共に、高齢者や障害を持ちながら生活している人たちが安心・安全に暮らせる陸前高田市を目指していきましょう。

編集後記

早くも年度末になりました。「今年こそ計画的に運営しよう!」と誓ったのもつい昨日のように思える今日この頃です。今年度は災害市営住宅中田団地も完成して、1 階には市民交流プラザも開所しました。地域包括ケアコーディネーターも 3 人配置されそれぞれの得意分野を発揮して活動開始しました。チームけせんの和の研修会においては「患者・利用者を支える医療介護の連携を探る」と題して、2 回のグループワークを実施しました。その後に、シンポジウム「多職種連携による在宅での終末期ケアの現状と課題について」6 人のシンポジストによる発表を戴き当市における現状と課題について理解することが出来ました。本当に会員皆さんのおかげで 1 年間やってこられました。今後も何をやるにしても会員中心の会ですので、忌憚のないご意見やアイデアをお待ちしております。いつでも市民交流プラザにいらしてください。お待ちしております。

※この会報は、市からの補助金で作成しました。